

■ ますの話題

プールで大はしゃぎ！ —牡丹台プールフェスタ2017—

7月23日と8月5日、牡丹台水泳場で「牡丹台プールフェスタ2017」が行われ、市内外から訪れた多くの人でにぎわいました。両日ともプールを無料開放し、アクアボール体験や水上ごっこ渡りなどのイベントを開催。普段のプールでは体験できないイベントに子どもたちは大はしゃぎ！ 大きな水しぶきを上げ、元気いっぱい楽しんでいました。



アクアボールで水の上に浮かんだよ！

がんばれ小中Bチーム！ —カローリングカップ全国大会出場報告—

県カローリング大会で優勝し、全国大会への出場権を獲得した小中Bチーム(長沼)のメンバー3人が、8月7日に来庁し、橋本市長に出場報告をしました。橋本市長は「優勝を目指して頑張ってください」と激励し、3人は「力を合わせて頑張ってきます」と意気込みを語りました。全国大会は、9月17日に愛知県名古屋で開催されます。



全国大会に出場する小中Bチーム。左から内山タカ子さん、内山ノブさん、奥川トメ子さん

医学生が地域医療の現場を体験 —地域医療体験研修—

8月2日～4日、医学生を対象とした地域医療体験研修が、須賀川市、鏡石町、天栄村、玉川村の医療施設などで開催されました。今回で2回目となる研修には、県立医科大学の学生など11人が参加。各地域の特色ある医療施設の視察や医療従事者との意見交換、地域住民との交流などの体験を通して、地域医療への理解を深めました。



市内の医療機器製造現場を視察しました

手術器具の操作を体験する学生

歓声が沸き起こる牡丹台野球場 —福島ホープス公式戦—

8月13日、牡丹台野球場でBCリーグの福島ホープスと石川ミリオンスターズの公式戦が行われました。天気も良くお盆休みとあって、スタンドには多くの人が観戦に訪れ、地元の福島ホープスに声援を送っていました。結果は13対1で大勝！ 打線が爆発しホームランも出るなど、観客は大興奮でした。



気迫のピッチングで福島ホープスが勝利！

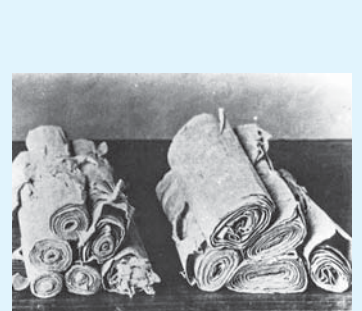


みんなの
ひろば

地面を掘ったら大昔に埋められた宝物が出てきた、という場面に遭遇することはめったにないことですが、史跡の中には、そのような偶然によって世に現れたものも少なくありません。西川の山寺地区にある史跡、米山寺経塚はその一つです。

ふるさとの遺産²⁷ 国史跡 米山寺経塚群

米山寺経塚の発見は、明治17年、この地の鎮守である日枝神社本殿改修のため整地をしたことがきっかけでした。壺や矢じり、短刀などが出てきたため、周りの塚も掘ってみると、日本の巻物を入れた陶器の壺や銅鏡の破片などが次々と現れました。経典を地中に埋めた「経塚」です。経塚は、仏教が廃れ世の中が乱れるとする末法思想を背景に、平安時代に西日本で始まった供養の一種で、この地にもこういった供養を営む財力を持った貴族と文化が存在していたことを証明するものです。



米山寺経塚1号経塚の紙本経(大正時代に焼失)

私たちがこの地をめぐると、平安時代の貴族が地中に埋めたお経のタイムカプセルを、偶然にも掘り当てた明治時代の人々は、さぞ興奮したのではないのでしょうか。埋蔵文化財の取り扱いが制度化された現代ではなかなか起こりえないことで、このような大発見に立ち会えた人をうらやましく思います。

①気付く(変化に気付いて声を掛ける)
家族や仲間の発言・行動・体調の変化に敏感になり、変化に気付いたら「眠れていますか？」など、自分ができる声掛けをしましょう。

②傾聴(本人の気持ちに尊重し、耳を傾ける)
悩みを話してくれたら、

サークルとわたし

しんゆう22

代表者 金田 信夫
会 員 26人
発足年月 平成22年4月
連絡先 ☎(72)8676
活動日 毎週木曜日
午前9時30分～11時30分
活動場所 西袋地域体育館

私たちのサークルは、平成21年度市スポーツシニア研修会を修了した人たちが中心となり、新しく入会された方々と共に、26人で活動しています。現在は、67歳から78歳までの会員で、ラバーバレーボールやグラウンドゴルフ、マレットゴルフ、ボウリング、ファミリーバドミントン、和気あいあいと楽しく、けがのないように活動しています。毎年、シニアのスポーツ大会や地域の大会、交流事業に参加し、11月にはシニアスポーツ交流親善会に参加します。また、年1回忘年会を兼ねて1泊の旅行に行き、会員同士の交流を深めています。サークル名の「しんゆう」には、「新しい友」が「親しい友」になり、やがて「心の友」になる」という思いが込められています。これからも、「心友」と共に、いつまでも元気に活動していきたいと考えています。 和田 金田 信夫

広報紙に登場して
みませんか

サークルとわたし 市内で活動しているサークルを紹介しています。希望する人は、秘書広報課にご連絡ください。

秘書広報課 ☎(88)9112

自殺者ゼロを目指して

誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指し、多くの人が自殺について正しい知識を身に付けることが大切です。

健康づくり課 ☎(88)8123

時間を掛けて、できる限り話に耳を傾けましょう。

③つなぐ(早めに専門家に相談するよう声を掛ける)
医療機関・相談機関への相談につなげましょう。

④見守る(温かく寄り添いながら、じっくりと見守る)
自然な雰囲気です声を掛け、焦らず優しく寄り添いながら見守りましょう。

平成28年の全国の自殺者数は2万1897人で、22年振りに2万2000人を下回りましたが、依然として深刻な状態です。自殺の多くは様々な要因が連鎖する中で起きています。男性に多く、40～50代に集中しているのが現状です。

自殺予防のために
できる行動

すこやか通信
9月10日～16日は
自殺予防週間